



入学式

平成24年4月9日(月)午後1時30分から、全日制課程第67回の入学式を行いました。
本年度は男子107名、女子132名、合計239名の新入生を迎えました。これまでの先輩たちに負けない凛とした彼らの表情が素敵でした。

第六十七回生祝入学

題字・松岡美希2年2組



第77号

天高育友会報
平成24年7月19日発行
発行 県立天草高等学校育友会
編集 天高育友会文化広報委員会
印刷 ワタナベデザイン

宣誓

満開の桜の花びらが、やわらかな風に舞うこのよき日に、私達全日制課程二三九名は、この伝統ある天草高等学校の新入生としてこの場に立てることを、とても嬉しく思います。

今、私達は将来に向けて目標を見定め、進んでいく第一歩に立ちました。歩む道のりは平坦ではないかもしれませんが、自分の夢の実現のために、着実に努力していこうと思います。

そして、高校での生活をより有意義なものにするために、勉強はもちろん、部活動や生徒会活動にも力を注いでいきます。

これから始まる新たな生活の中で、先生方や先輩方にはご迷惑をおかけしたり、お力をお借りしたりすることもあるかと思いますが、その時はどうぞ、時には厳しく、時にはあたたかくご指導くださいますよう、お願いいたします。

最後になりましたが、先程校長先生より頂いた激励の御言葉を胸に、天草高校の生徒としての誇りと自覚を持ち、日々成長していくことをここに誓い、宣誓の言葉といたします。

平成二十四年
四月八日



全日制課程
三嶋 晴香

子どもたちの明日の為に

育友会会長 山浦 孝弘

昨年に引き続き育友会会長を務めさせて頂きました山浦です。
日頃より、育友会活動へのご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本校の育友会活動は学校への支援と子どもたちの健全育成を目的とした取組が中心となっています。又、進路面では進路支援委員会が課外・保護者学習会の運営を行っています。

私は、子どもたちに三年間という短い高校生活で本校の校訓「正大・剛健・寛厚」のもと文武両道の精神にのっとり学業・部活動・生徒会活動に切磋琢磨し社会の様々な困難にも対応できる力を備える人間に成長してもらいたいと願っています。

現在、子どもたちを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、さまざまな教育問題が渦巻いている今日

「基壇」を大切に教育を

校長 山村 清二

五月二十一日付けで校長に赴任しました山村清二です。今年で創立百十六年を迎える歴史と伝統のある学校に勤務できることを、この上なく誇りに感じています。育友会の皆様には、数多くの学校行事にご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

六月の高校総体において、弓道男子の個人優勝及びインターハイ出場をはじめとして、ソフトボール部の準優勝及び九州大会出場、水泳部女子100mと200mのバタフライで九州大会出場、陸上部女子400mと1600mリレーで九州大会出場等と、素晴らしい活躍を見せてくれました。若者らしい情熱と力強さを改めて感じた大会でした。同様に、同時開催の総文祭においても、芸術関係の展示や発表によって天高生らしい豊かな感性を示してくれました。生徒たちが、この情熱と力強さと豊かな感性をもとに、さらなる成長を遂げるためには、高校時代に人生の基礎を学び、基本的な人格を形成することが不可欠です。

ところで、日本が誇る建築技術である制震構造を持つ法隆寺の五重塔を真似た東京スカイツリーが完成しました。この地震などに強い法隆寺の修復に長年携わられた宮大工の西岡常一氏について紹介したいと思います。西岡氏は、宮大工とは見習いとされる農業高校へ進学された経歴を持っておられます。それは、宮大工棟梁であった西岡氏の祖父に、次のように勧められたためです。

「人間ちゅうものは土から生まれて土に戻る。木も土に育って土に戻るのや。土を忘れたら、人も木も塔もあらへん。土のありがたさを知らんでは、本当の人間にも、立派な大工にもなれへん。」

において、保護者・学校の連携が最も大切だと私は考えます。今こそ、更なる連携を図り子どもたちの夢の実現の為に私たち保護者が頑張る時ではないでしょうか。

子どもたち一人ひとりの夢はそれぞれ違いますが、その夢の実現の為に今、しなければならぬことは同じだと思います。育友会と致しまして、学校と連携し全力でサポートして行きたいと思っております。また、多くの保護者の皆様に学校へ来て頂き子どもたちの成長を肌で感じられる活動となるよう頑張っております。

子どもたちの明日の為に、共に頑張りましょう。今後とも皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

西岡氏は、祖父の言葉を踏まえて懸命に学業に取り組む。その結果、ヒノキの根の張り具合で木の善し悪しや、古木の芯の充実度を見分けることができるようになったそう。

西岡氏が、「木を語れば当代の第一人者」、「昭和の最後の宮大工」とまで言われるようになった背景のひとつには、「土のありがたさを知らう」と努力した高校時代があったのです。

本校では、生徒たちに対し、「求志成」をモットーにして、学業や部活動を通して、人生の基礎を学び、基本的な人格を形成するための機会を、これからも可能な限り提供してまいります。生徒一人ひとりが、これらの機会を最大限にいかして、五重塔を約千二百年も支え続けている法隆寺の「基壇」のように、しっかりとした人生の基礎や、基本的な人格を着実に作り上げていってほしいと思います。

近年、若者をめぐる環境は厳しさを増しています。「造林においても過保護をすれば弱くなる」というのは、前述の西岡氏の言葉ですが、生徒たちには、それぞれの「基壇」を基に、現状に満足することなく、自ら厳しい環境に身を置き、互いに切磋琢磨し、これからの厳しい時代を生き抜くための対応力・判断力等を着実に身に付けていってほしいと思います。

本校教職員一同、育友会役員の方々をはじめとした保護者の皆様と緊密に連携しながら、これからも全力で教育にあたりたいと考えております。引き続き、ご理解・ご協力のほどをお願いいたします。